



●発行 2021.9.15. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

## ■第7回総会後の「売電収益活用についての意見交換会」

副理事長 加藤 伸子

6月27日、第7回通常総会の終了後、「売電収益の活用方法についての意見交換会」をおこないました。みなさんから出た意見は、

### 『短期計画』

- ①でん太通信の充実・会員に毎号発送する ②1号機に看板設置 ③見学会やスタディツアー企画
- ④おひさまフェス再エネブースの充実 ⑤オフグリッドワークショップの費用負担（会員限定）
- ⑥10周年記念誌の製作 ⑦学校への出前授業 ⑧広告宣伝費用

### 『中期計画』

- ①川崎医療生協の病院屋上に太陽光発電あるいは太陽熱温水器を設置 ②ワーカーズコープの事務所を借りる ③3号機に電光掲示板設置（発電量などオンタイム表示） ④出資者に地場野菜を配る

### 『長期計画』 ①専従者の配置

今後、明るい未来に向けて精査しながらすすめていきます。



## ■「再エネの普及、売電収益の活用と、今後の活動について」

理事 鴨下 元

福島原発事故から10年が経ち、世界の再エネ（自然エネルギー）をめぐる状況が激変している中で、NPO法人としてどのような役割を果たすべきか、個人的な見解をお話させていただきます。

原発事故の直後は、脱原発の世論が世界的に広がる中で、「原発を止めたら電気はどうするのか」、「再エネは不安定」、「再エネは高い」という主張が原発推進派から宣伝されました。そうした状況下で当NPO法人が設立され、再エネについて学び、誤解を解き、市民の手で1号機～4号機まで市民発電所をつくってきたことは大きな意味を持ったと思います。発電量は決して多くはありませんが、政府への反対運動とは違った切り口から脱原発の土台を作っていく再エネ普及活動は、多くの市民に新鮮に受け止められました。



原発事故から10年が経ち、世界的に脱原発の流れが広がり、技術革新と大量生産によるコスト低下によって「再エネは安い、儲かる」ということが世界の政治家や経営者の常識になってきました。また、複数の再エネを組み合わせ、補助的・調整的に火力発電も使用することで、再エネを主役に電力を社会全体へ安定供給できることが証明されました。一方、環境破壊型の太陽光発電所の建設などが社会問題になっています。

現在の再エネ普及の主役は企業・経済界であり、市民やNPOが声をあげなくても今後も再エネのシェアが拡大していくことは間違いないところまでできています。では、こうした状況でNPOが存在意義を発揮するには、どうすればいいのでしょうか。それは、「環境破壊型の再エネ開発ではなく、自然と共生する持続可能な形での再エネの普及」、「利益を地域住民などに還元する地域分散型の再エネ」を訴えていくことだと私は考えます。いくら再エネが普及しても、売電収益が日本の大企業や外国企業の本社に吸い上げられては意味がありません。

世界の先進的な事例をみると、市民が共同して創った発電所は、その利益が出資者、屋根貸しオーナー、地域社会にお金として還元されており、それが再エネを普及させる原動力になっているという点が重要だと思います。

一方、当法人は法人格がNPOであり、利益の分配や営利事業には制限があります。NPOとしたことで社会的な信用は高まりましたが、市民発電とNPOという組み合わせには限界があると私は考えました。また、当法人は発電事業のみをおこなっていますが、再エネを地域分散型で運営して地域社会に利益を還元させるためには、売電事業に踏み込む必要があります。ただ、市民が主体に創った売電会社の先行事例では採算性は厳しいようです。また、売電事業は発電事業とは桁が違う資本金が必要であり、軌道に乗れば安定した利益が期待できる一方、それまでは赤字が続き集めた出資金も返済できない可能性が高いものとならざるを得ません。

当法人は、有給の正社員がいません。長期的にお金や設備の管理に責任をもつ必要がある事業であり、それなりの売電収益がありながら、人間を常用雇用するには経済規模が小さく採算が合わない、総合的に見て中途半端な規模だという点も直視する必要があります。この先、仮に当法人が市民発電所の5号機、6号機、7号機を建設するとすれば、お金を集めて建設するまではできないこともないでしょうが、約20年後の発電設備の解体・撤去まで責任を持てるのが、誰が責任をもつのか、人間の健康寿命も考慮して考えないといけません。

2021年6月27日に当法人の総会を開催しました。

売電収益の活用についても様々な意見が出されました。その議論の中で感じた事は、まず現状認識と長期的な展望について、当法人の会員間でも認識に大きなずれがあるという事です。1号機～4号機までの市民発電所の20年間の売電額は6500万円以上となる見込みである一方、出資金の返済や発電設備メンテナンスと撤去費用、税金など多額の出費も予想されます。同時に、数百万円単位で「脱原発と再エネ」のために使える売電収益が生まれる見込みであり、有効に活用することが出資者に対する責任です。

NPO法人設立当初とは再エネをめぐる状況が激変して、企業・経済界による再エネ推進の流れが世界的本流となる中で、当法人がどう存在意義を発揮して、新しい会員が増えるような魅力的な活動をつくるかが問われています。その出発点は、会員間で現状認識を正確に一致させることだと考えています。また、広報活動や政策提言活動の比重を上げていくことが大事だと感じています。

その一歩として当NPOの機関紙「でん太通信」の内容の充実と郵送を具体化することが大事ではないでしょうか。



《お知らせ》9月25日開催を予定していた『おひさまフェス×星空上映会』は、コロナウィルスの緊急事態宣言にともない、2021年の開催を断念いたしました。

\*\*\*\*\*

## ■7/18「10年目に語り継ぐ、原発事故学習会」報告

フクシマを忘れない会 理事長 高橋 喜宣（当NPO法人理事）

### 【ちょっぴり関心層にも、原発事故の無念を語り継ぐ】

去る7月18日、当NPO法人と「フクシマを忘れない会」との共催で川崎市総合自治会館にて「10年目に語り継ぐ、原発事故学習会」を開催しました。参加者は総数63名。小学生6名、中学生3名、高校生1名から82歳までのオール世代でした。

「反原発運動はあるが、反対ありきが先で、被災者の生の声が伝えられることは少ないのではないか」また、「原発事故を伝えるものは数多くあるが、小中学生にも実感して分かるようなものは少ない」。そこで、原発賛成派も反対派も、若きも古いも一緒になって改めて被災者の立場から『原発事故が何たるかが見えてくる』場を設けたいという思いで選んだのは、アニメ映画・浪江町消防団物語『無念』という企画です。

アンケートでは、10年目にして「初めて原発事故の恐ろしさを知りました」と70代。「いったいどれほどの無念があったのか。無関心の恐ろしさ、無知の恐ろしさを感じました」と50代。「原発教育のあやまり。伝承館のむだづかい」と指摘する50代。更に50代の方が「小学生の回答に、未来を感じる」とコメントを記しています。

子どもたちも「かなしいお話でこういうことが本当におきたらどうしようと思った」と。もっとも「よくわからなかった」と記載した7歳の子もいました。

10年目の今だからこそ、何が起こったのか語り継ぐことが「人類にとって1番大事なことだ」と少しは実感してもらえたでしょう。



中学生が感想を笑顔で発表



会場の様子



映画の感想を書いたポストイットを貼っている様子





## クリーンな電力を医療に生かしたい

虫や花や野鳥を追いかけて育ち、高校生の頃から、反公害や自然保護の活動を通じて社会に目覚めていった自分にとって、高度経済成長下で、環境が汚染され、自然が失われて行く過程は我慢ならないものでした。「大人」になるにつれ、ノンポリを決め込むようになっていきますが、それでも、自然への思い、環境への関心は、消えることはありません。

そんな中、あの3.11 原発事故がありました。初めは、「震災という天災の一部」、ととらえていましたが、長年の原子力政策を含め、人による未曾有の環境汚染、あまりにも身勝手な自然破壊であると、次第に気づかされました。声を上げなければ、という想いはつづりましたが、口先だけで反対を唱えても、何も変わらないことも感じていました。小さくても具体的な行動や成果を伴った提案、それを沢山の人が時空を超えて積み重ねて行くこと、そんな取り組みによって、初めて「力」が生まれるのだと。反原発を訴えるだけでなく、原発に代わる選択肢を自ら示し、作り、動かして行く。そんな思いに、かわさき発電所の運動が、まさにぴったりとはまったのが参加のきっかけです。

これまでは、皆さんの努力にタダ乗りするだけの会員でした。今後は、積極的に会員としての務めを果たしたいと考えております。前途には、多くの困難も予想されますが、外に向けた発信と幅広い立場の方々とのつながりを目指した、明るく楽しい活動であってほしい。個人的には、クリーンな電気を作って売る活動から、作って生かす、そして使うことを通じて、世の中を明るく変えて行く、そんな運動への「脱皮」を目指せればと思っています。

6月から、川崎医療生協の事業と活動に責任を持つ役割を担うことになりました。医療現場は、大きく電力に依存しており、また自ら人の健康を損なうことのない、クリーンな存在である事も求められています。そんな意味からも、かわさき発電所と力や歩調を合わせて、やるべき事、やりたい事がたくさんあるように感じています。あらためて宜しくお願い致します。（2021年8月28日）



### 【編集後記】

#### 『パブコメに参加しよう』10/4まで！

「第6次エネルギー基本計画」が最終段階を迎え、パブリックコメントが開始しました。一言でもいいので、未来のために声を届けましょう！ ↓「ATO4NEN」URLをご参考に。

[http://ato4nen.com/public-comment/?utm\\_medium=email](http://ato4nen.com/public-comment/?utm_medium=email)

（加藤伸子）

### ■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189（川岸）

でん太通信は、ほぼ毎月15日に発行しています。

